

(1) オホーツク海的环境

北海道のオホーツク海沿岸では、冬の寒さが厳しくなり、北西の風が吹き続ける年明け頃から春先にかけて流氷が接岸します。流氷の季節になると、ゴマフアザラシやトドなどの海獣類やオオワシやオジロワシなどの鳥類もエサの魚を求めて姿を現します。

ゴマフアザラシやワモンアザラシなどは、流氷の上で出産して子育てを行うなど、オホーツク海で生活する生き物は流氷と深いかわりを持っています。



▲オジロワシとオオワシ（黄色の嘴）

(2) 砂地にすむ魚

砂地の海底では、トクビレやアツモリウオなどを見ることができます。どれも砂の上でほとんど動かず、じっとしているのが特徴です。アツモリウオは真っ赤な鎧を身にまとったような風貌から、源平合戦の武将、平敦盛にちなんで名前がつけられました。

地味な魚の多いオホーツク海にも、鮮やかな魚がいます。トクビレのオスは、尻ビレと背ビレがメスよりはるかに大きく、そのヒレを広げると孔雀の羽根のようです。



▲トクビレ



▲アツモリウオ